

注 意 報

長崎県病害虫防除所長

令和5年度病害虫発生予察 注意報第8号

たまねぎ（早生） ベと病

1. 発生地域（対象地域） 県下全域

2. 発生程度 やや多

3. 注意報発令の根拠

- (1) 2月前期の巡回調査（16筆）の結果、発病株率は0.05%（平年 0.04%）、発生圃場率は12.5%（同 12.5%）であった（図1、2）。一次感染株に加え、すでに二次感染株の発生も確認されている。
- (2) 気象に基づく二次伝染推定モデルによると、本病の感染に好適な条件が1月末から2月上旬にかけて昨年より早く、高頻度で出現しており、潜伏期間後に発病する可能性がある（表1）。
- (3) 気象予報（福岡管区气象台、令和6年2月15日発表）によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量も多い見込みであり、本病の発生に好適である。

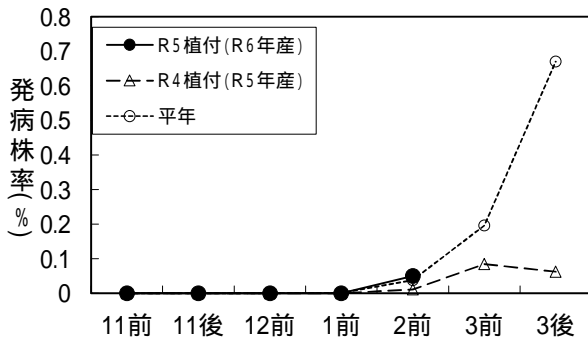


図1 たまねぎべと病発病株率の推移

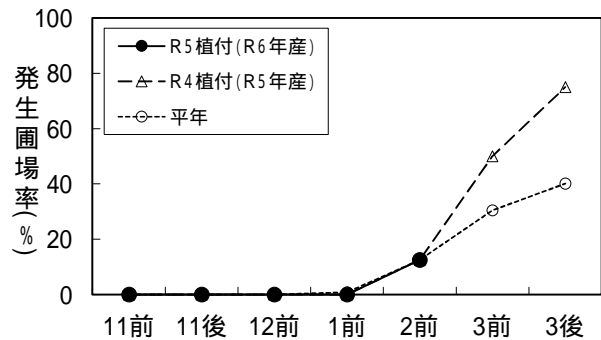


図2 たまねぎべと病発生圃場率の推移

表1 タマネギべと病二次伝染推定モデルによる感染・準感染好適条件の出現状況

2024年		1月	2月															
		31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
出現状況	長崎	○			○	○	○									○	○	
	佐世保	○			○		○	○	○							○	○	
	島原		○		○	○	○	○										

(参考)

2023年		1月	2月															
		31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
出現状況	長崎												○	○	○			
	佐世保												○	○	○			
	島原								○				○	○		○		

注1) ○：感染好適条件 ○：準感染好適条件

注2) 気象データはアメダスデータ（気温・風速・湿度）を用いた。

4 . 防除対策

- (1) 圃場の見回りをこまめに行い、発病株（一次感染株）を発見したらできるだけ早く抜き取る。抜き取った株は圃場内に放置せず、胞子が周囲に飛散しないよう、その場で直ちに袋等に入れて圃場外に持ち出し、適切に処分する。
- (2) ベと病は条件が整うと感染と発病を繰り返し急激に蔓延するため、今後の気象情報等に留意し、一次感染株の見られる圃場では早急に薬剤散布を行う。また、発病が見られない圃場でも2月中下旬以降は定期的な予防散布を行う。薬剤散布量が十分でないとう効果が低下するので、薬剤には展着剤を加用し、株全体が濡れるようむらなく散布する。
- (3) 圃場の排水が悪いと本病の発生を助長するので排水対策を行う（明きよの切り直し等）。

長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室

(長崎県病害虫防除所)ホームページ」アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室

(長崎県病害虫防除所) TEL : 0957-26-0027

